

授業科目	論理学	担当教員	外部講師 稲生 勝	単位数	1	時 期	1 年次 4 月～6 月		
				時間数	3 0				
目的と目標	論理的なものの見方、考え方、表現する力を養うことができる。 1 論理的な考え方を学ぶ。 2 論理的に自分の考えが表現できる。								
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員			
1 2	論理的に考えるとは	(1) 論理的思考とは (2) 論理的に考えることができる人とは			講義	外部講師 (稲生 勝)			
3 4	接続関係	(1) 様々な接続関係 (2) 接続関係の構造 (3) 議論の組み立て			講義				
5 6 7	論証	(1) 論証の構造評価 (2) 演繹と推測 (3) 価値評価立て (4) 論証の構造 (5) 論証の評価			講義				
8 9	演繹	(1) 否定 (2) 条件構造 (3) 推論の技術			講義				
10 11 12	論理的に書く	(1) レポート作成			演習				
13 14	論理的に話す	(1) ディベート			演習				
15	試験（1 時間） まとめ（1 時間）	(1) 筆記試験 (2) まとめ			試験 講義				
評価方法	筆記試験 100 点								
教科書 参考文献	講義資料を配布								
事前準備や 受講要件等	配布資料を熟読し講義に臨むこと								

授業科目	情報リテラシー	担当教員	外部講師 伊藤 昭 安田 成臣	単位数	1	時 期	1 年次 1 2 月～2 月
			時間数	3 0			
目的と目標	情報とは何かを学び、医療従事者として適切に情報を取り扱うことができる。 1 情報モラルを身につけることができる。 2 ソーシャルメディアを活用した情報収集・情報活用が適切に行える。						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1 2	看護・医療と情報システム	(1) 看護師の意思決定と情報 (2) 医療における情報の記録 (3) 医療情報の電子化と医療情報システム (4) 病院情報システム、電子カルテシステム			講義	外部講師 (安田成臣)	
3	コンピュータとインターネット	コンピュータとインターネットの基礎知識を学ぶ			講義	外部講師 (伊藤 昭)	
4	著作権・セキュリティとプライバシー	ネットワーク社会のルール、セキュリティとプライバシーのリテラシーを学ぶ			講義		
5	情報科学入門	ネットワーク社会の基礎となる情報科学について基礎知識を学ぶ			講義		
6	統計の基礎	情報化社会に対応したデータとして、統計学の基礎を学ぶ			講義		
7	確率と推定	様々データを基に、科学的な「推定」を行うための基礎知識を学ぶ			講義		
8	情報科学の未来	情報科学の現状と将来について学ぶ			講義		
9	ワード演習 1	ワードの基本を学び資料を作成する			演習		
10	ワード演習 2	図表を含めたワード文書を作成する			演習		
11	エクセル演習 1	エクセルの基礎を学び、表を作成する			演習		
12	エクセル演習 2	表計算の機能を用いて、統計データを処理する			演習		
13	エクセル演習 3	エクセルとワードを連携して資料を作成する			演習		
14	パワーポイント演習	パワーポイントで発表資料を作成する			演習		
15	試験（1 時間） まとめ（1 時間）	(1) 筆記試験 (2) まとめ			試験 講義	外部講師 (伊藤 昭)	
評価方法	試験 100 点（3～15 回） 筆記試験（50 点）、演習レポート（50 点）						
教科書 参考文献	30 時間アカデミック office 2019（実教出版） 講義資料を配布、系看 別巻 看護情報学（医学書院）						
事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと						

授業科目	成長と学びⅠ	担当教員	専任教員	単位数	1	時	1 年次 4 月～1 2 月
				時間数	3 0	期	
目的と目標	他者との協同学習を通して、自己の考えを明確にし、他者の考えに関心が持てる。 1 学校で生活する上での基本的ルールを理解し習得できる。 2 自己の特徴を知り、他者と協同作業を行う上での自己の役割を認識し行動できる。						
回数	学習課題	内 容				方 法	担当教員
1	自分が目指す看護	(1) ビジョンとゴール (2) 目指すべき姿に近づくための方法				講義 演習	専任教員 ()
2	学びの方法	(1) アクティブラーニング				演習 演習	
3		(2) リフレクション					
4		①理論と実践をつなぐリフレクション ②省察すること					
		(3) レポートの書き方 ①レポート記載のルール ②レポートを書いてみよう					
5	今年度のテーマの決定	(3) レポートの書き方 ①レポート記載のルール ②レポートを書いてみよう				講義 演習	
6		(4) 自己学習の必要性 (5) 課題学習の進め方					
		(1) 自分たちのテーマへの取り組み計画 (2) 役割分担 (3) 行動計画					
7	グループテーマへの取り組み	(1) 自分たちのテーマへの取り組み計画 (2) 役割分担 (3) 行動計画				演習 2 年 生 と 合 同	
8							
9	プレゼンテーション準備	(1) 各グループで計画にそって学習する				演習 発表会 2 年 生 と 合 同 演習	
10		(1) 学んだ内容をまとめる					
11		(2) 学んだ内容について評価・修正する (3) 学びのプレゼンテーションの準備					
12	発表					演習 発表会 2 年 生 と 合 同 演習	
13	自己評価	(1) 自己評価 ①自己の変化や成長を評価する					
14	学びの共有	(1) 看護研究発表からの学び					
15	評価 レポート試験	(1) 学んだ内容をまとめる (2) 学んだ内容について評価・修正する (3) 学びのプレゼンテーションの準備				演習 3 学 年 合 同 レ ポ ー ト 試 験	
評価方法	レポート (80 点)、グループワークへの取り組み (20 点) * 再試験の場合はレポート試験 100 点分で評価する						
教科書 参考文献	講義資料を配布						
事前準備や 受講用件等	適宜、提示する課題について、期限を厳守して提出する						

授業科目	成長と学びⅡ	担当教員	専任教員	単位数	1	時期	2 年次 5 月～1 2 月
				時間数	1 5		
目的と目標	目指す看護師像に近づくための自己の課題を明確にできる。 1 1 年次の学びを生かし、リーダーシップを発揮できる。 2 自己の特徴を知り、他者と協同作業を行う上での自己の役割を認識し行動できる。						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1	自分が目指す看護	(1) ビジョンとゴール (2) 目指すべき姿に近づくための方法			講義・演習	専任教員 ()	
2	自己の役割	(1) 看護師に必要な実践能力とは (2) リーダーシップ・メンバーシップとは			講義・演習		
3 4 5	ファシリテーターとしての取り組み	(1) ファシリテーターとしての取り組み計画 (2) ファシリテーターとしての取り組みの実際			演習 1 年 生 と 合 同		
6 7	学びの共有	(1) 看護研究発表からの学び (2) ビジョンゴール評価・次年度に向けて			演習 3 学 年 合 同 講義・演習		
8	評価 レポート試験	(1) レポート試験			レポート試験		
評価方法	レポート (80 点)、グループワークへの取り組み (20 点) * 再試験の場合はレポート試験 100 点分で評価する						
教科書 参考文献	講義資料を配布						
事前準備や受講要件等	適宜、提示する課題について、期限を厳守して提出する						

授業科目	医療コミュニケーション	担当教員	専任教員☆ ① 外部講師☆ ②	単位数	1	時期	3 年次 6 月～11 月
				時間数	1 5		
目的と目標	看護における看護師－看護師関係、看護師－コメディカル関係の関係性確立のためのコミュニケーションに必要な知識・技術・態度を身につける。 1 看護師間におけるコミュニケーションの必要性和方法が理解できる。 2 多職種と良好な関係性を構築するためのコミュニケーションの方法が理解できる。						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1 2 3	看護師のチームワークとコミュニケーション	(1) 看護師間での情報共有におけるコミュニケーション ①看護師間におけるコミュニケーションの必要性 ②SBAR の活用 (2) ロールプレイング 事例を活用し、事例に対しコミュニケーションを展開する			講義 演習 講義 演習	専任教員 ()	
4 5	多職種連携を円滑に行うスキル	(1) 多職種連携・協働に必要な能力 (2) 多職種連携・協働に必要なコミュニケーション能力 (3) アサーティブな関わり			演習	外部講師 () 専任教員 ()	
6 7	多職種のチームワークとコミュニケーション	(1) 専門性を生かしたコミュニケーション (2) 他職種とコミュニケーションをとるための留意点 (3) 多職種とのコミュニケーションの実際の場面を振り返る (4) チーム医療における看護師の役割			講義 演習 (統合 実習後)	専任教員 ()	
8	試験 (1 時間)						
評価方法	筆記試験 100 点						
教科書 参考文献	新体系 看護学全書 看護の統合と実践①看護実践マネジメント/ 医療安全 (メヂカルフレンド社) 講義資料を配布						
事前準備や 受講要件等	適宜、提示する課題について、期限を厳守して提出する						
☆担当教員の 実務経験	①②看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。						

授 業 科 目	グローバルヘルス	担 当 教 員	外部講師 Jeffrey Clapp 各務眞弓 レオナルド宮本	単 位 数	1	時 期	3 年次 7 月～12 月
目 的 と 目 標	日本で暮らす外国にルーツのある人の医療・看護の課題を理解する。 1 外国にルーツのある人の特性がわかる。 2 外国にルーツのある人への健康サービスの実際と課題について理解できる。 3 外国にルーツのある人の身体的な状態を把握するためのコミュニケーションができる。						
回 数	学 習 課 題	内 容			方 法	担 当 教 員	
1 2	日本及び居住地における 外国にルーツのある人の 理解	(1) 日本に在住する外国にルーツのある人 (2) 岐阜県に在住する外国にルーツのある人 (3) 病気になった時に困ること (4) 外国にルーツのある人への健康サービスの 実際について			講義	外部講師 (各務眞弓)	
3 4	健康状態を把握するため のコミュニケーション 2 (ポルトガル語)	(1) 自己紹介／文化 (2) 挨拶 (3) ブラジルの医療状況について (4) 症状の確認			講義 演習	外部講師 (レオナルド宮本)	
5 6 7 8 9 10 11 12 13 14	健康状態を把握するため のコミュニケーション 1 (英語)	(1) 外来受診時 (2) 入院時の対応 (3) 各症状（発熱、下痢、吐き気、嘔吐、 頭痛）の確認方法			講義 演習	外部講師 (Jeffrey Clapp)	
15	まとめ（1 時間） 試験（1 時間）	(1) まとめ (2) 筆記試験			講義	外部講師 (Jeffrey Clapp)	
評 価 方 法		筆記試験 100 点（5～15 回）					
教 科 書 参 考 文 献		講義資料を配布 Smart Choice Student Book 4th Edition (Oxford University Press) (3 回～12 回)					
事 前 準 備 や 受 講 要 件 等		適宜、提示する課題について、期限を厳守して提出する					

授業科目	社会学	担当教員	外部講師 神戸 博一	単位数	1	時 期	3 年次 4 月～7 月
目的と目標	人は社会との関わりなしには生きていけない。その社会を多角的にとらえる力を身につけたい。社会学は、社会人、職業人にとって基礎的な教養である。 医療者は、人々の健康の保持、増進や回復と関わっている。そうした行為と社会とが密接な関わりと大きな影響力をもっていることを理解し、洞察する力をもち、医療行為において実践する力を身につけてもらいたい。						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	成績評価、医療者にとっての社会学（はしがき） 近代社会の成立と社会学（序章） 1 近代社会の成立と社会学 2 社会学の体系と医療社会学 性・ジェンダー・家族と保健医療（第 12 章） 1 性・ジェンダー・家族と保健医療 2 性・ジェンダー・家族と保健医療 3 健康と病気の社会格差（第 7 章） 1 健康と病気の社会格差 2 健康と病気の社会格差 3 患者－医療者関係のコミュニケーション 1（第 10 章） 患者－医療者関係のコミュニケーション 2 社会学の基礎概念 試験	1 試験について 2 看護者にとっての社会学の意味 A 社会と社会学 1 社会 2 産業革命・市民革命 3 コントの社会学 B 古典的社会学 C 医療社会学の誕生と発展 1 社会学の分類 2 医療社会学の展開 D 結婚と家族 1 結婚と家族とは 2 日本の結婚と家族の変化 B ジェンダーとケア役割 A 性別と性差 A 社会格差と平等 1 階層・階級 2 エスニシティ・マイノリティ B 社会格差の諸相 1 経済的状況 2 職業 3 教育 D ヘルスリテラシー C 健康格差発生メカニズム A コミュニケーション B 患者と医療者関係とコミュニケーション 行為、相互行為 まとめ・復習、試験			講義	外部講師 （神戸 博一）	
評価方法	筆記試験 100 点						
教科書 参考文献	系統看護学講座 社会学（医学書院）						
事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと						

授業科目	哲学	担当教員	外部講師 竹内 章郎	単位数	1	時 期	3 年次 4 月～12 月
				時間数	3 0		
目的と目標	哲学の定義には様々あるが、この講義では、個人の生活のラディカル（根源的）な批判と世界のラディカルな批判とが結合する、或いは、個人の内面を深くえぐることと世界を鳥瞰する高い視点を持つこととが非常に近い作業になる、という哲学観を感得してもらいたい。具体的には病や障がいをもつ人間個人の生命を巡る問題と社会・文化の在り方全体の問題との結合を素材に、より豊かな人間の在り方とこれを可能にする社会・文化の在り方の根源を考える。通常の哲学史等では無視されがちな優生思想の問題にかなりの重点を置き、また哲学史自体は傍証的に触れるに止め、現代を哲学的に考えることを重視したい。講義は、ほぼ教科書の各章に沿って進めるが、毎回の講義前に該当の章を受講生の皆さんが熟読してくることを前提に行うので留意されたい。						
回数	学習課題	内 容			方法	担当教員	
1	ガイダンス	講義の狙い・概要、講義の進め方を理解する 重度障がい者の命の在り方から学ぶ: 命を巡る具体的在り方から哲学的観点へ（第1章） 「自己決定」論の問題性を中心に、安楽死論における命の在り方を捉える（第2章） ナチスや優生保護法等に限定されない優生思想の幅広さと深刻さを捉える（第3章） 強制不妊・優生保護・障がい者殺害等へ法制度化された優生思想を捉える（第4章） 商業的優生学等が新自由主義や現代の権利論の問題と結びつく点を捉える（第5章） 出生前診断の現実と優生思想との関連を考える その問題点を深く捉える（第6章） 「脳死」が臓器移植以前ではコーマと呼ばれていた問題を焦点に生死を捉える（第7章） 生命倫理学における理論を素材に生命の尊厳論・生命の質論等を捉える（第8章） 人格と訳される person を巡る哲学史上の問題を通じて人間を捉え直す（第8章付論） 三つの主要な病気観を踏まえながら、人間の把握を左右する病気観を捉える（第10章） 同じ漢字で障害物競走と障害者を表す日本語を契機に「障がい」を捉え直す（第11章） 能力が個人の私的所有物であるという常識が必ずしも正しくない点を捉える（第12章） 社会・文化の垂直的発展と水平的展開との関連・相違を捉える（第13章） 講義で学んだことを総括する 持込み不可の筆記試験を行う			講義	外部講師 （竹内章郎）	
2	生命の中の社会・文化という把握から命を考える						
3	「死ぬ権利論」の論理から命の擁護について考える						
4	優生思想を思想史や哲学史に立入って考える						
5	優生思想が現実に政策化された事態を考える						
6	現代の優生思想の在り方とその克服を考える						
7	出生前診断の現実と優生思想との関連を考える						
8	「脳死」・臓器移植と優生思想との関連を考える						
9	功利主義と道徳主義との関連を考える						
10	人格概念の意味を翻訳問題を交えて改めて考える						
11	病の捉え方と人間観との結び付きを考える						
12	障がい者及び障がい概念を「新たに」考える						
13	「能力の共同性」ということを考える						
14	社会・文化の在り方の現在と未来を考える						
15	講義のまとめと試験						
評価方法		筆記試験 100 点					
参考文献と資料		教科書として、拙著『いのちと平等をめぐる 13 章—優生思想の克服のために—』（生活思想社）を使い、適宜、資料も配布する					
事前準備や受講要件等		教科書、配布した文献・資料を、事前に必ず熟読すること					

授業科目	心理学	担当教員	外部講師 寺田 道夫	単位数	1	時期	1 年次 4 月～9 月
				時間数	30		
目的と目標	人間の心理や行動原理を学び、自己理解を深めるとともに、人間の心理的側面を理解する。 1 「私が他者の心を理解する」メカニズムを理解する。 2 「他者の理解」は、自分の中で起こることを理解する。 3 「心」に興味があるということは、一人ひとりが異なることに興味があることを理解する。 4 行動を規定する要因を理解する。						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1	心理学を学ぶ	心理学とは、講義の概要、ふれあい実習			講義	外部講師 (寺田道夫)	
2	心理学の歩み	ブント、フロイト、ウェルトハイマー、ワトソン、現代心理学の潮流					
3	感覚の心理	刺激閾と弁別閾、ものを見る仕組みと働き					
4	知覚の心理	物理的世界と心理的世界、錯視、立体視					
5	学習の成立	古典的条件づけ、オペラント条件づけ、社会的学習					
6	記憶の基礎	記憶術と健忘症、短期記憶と長期記憶					
7	思考の働き	問題解決のいろいろ、動作的思考と論理的思考					
8	動機づけ	生理的欲求、内発的欲求、社会的欲求					
9	情動と感情	情動の円錐モデル、情動の理論					
10	発達	初期経験の重要性、刻印づけとアタッチメント					
11	性格とは何か	性格のとらえ方（類型論と特性論）、性格の形成					
12	性格の測定	YG 性格テストをやってみよう					
13	対人関係の心理	対人認知、リーダーシップと組織					
14	嘘の心理	いろいろな嘘、嘘をつきやすい人、トラブルに巻き込まれないために					
15	試験（1 時間） まとめ（1 時間）	（1）筆記試験 （2）まとめ			試験		
評価方法	筆記試験 100 点						
教科書 参考文献	心理学 こころのはたらきを知る（サイエンス社） 配布資料						
事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと						

授業科目	家族看護学	担当教員	外部講師☆ 市川 百香里	単位数	1	時期	2 年次 4 月～ 6 月
				時間数	1 5		
目的と目標	看護の対象である家族を学ぶ意味がわかり、家族への看護を実践するための基礎的知識を学ぶ。 1 家族を看護することの意味が理解できる。 2 家族の病気体験が理解できる。 3 家族と援助関係を形成するための基本的姿勢が理解できる。 4 家族へのアプローチ方法が理解できる。						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1	家族を看護するということ	(1) 家族とは (2) 家族のとらえ方			講義	外部講師 (市川百香里)	
2	看護学における家族の理解	(1) 家族像 (2) 家族の強み (3) 家族の病気のとらえかた・理解 (4) 家族の苦悩、情緒的反応 (5) 家族の生活への影響、療養のマネジメント (6) 家族のニーズ (7) 病気・病者・家族の様相			講義		
3					講義		
4					講義		
5	家族と援助関係を形成する	(1) 援助関係とは (2) 看護者に求められる基本的姿勢 (3) 家族エンパワメントを支援する (4) 家族とのコミュニケーションにおける留意点			講義		
6	家族への看護アプローチ	(1) 家族のセルフケアの支援 (2) 家族の役割調整 (3) 家族関係の調整・強化、家族内コミュニケーションの活性化 (4) 家族の対処行動や対処能力の強化 (5) 社会資源の活用			講義		
7							
8	試験	(1) 試験			試験		
評価方法	筆記試験 100 点						
教科書 参考文献	家族看護学 (MC メディカ出版)						
事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと						
☆担当教員の 実務経験	家族支援専門看護師として勤務した経験を活かした授業展開をする。						

授業科目	体育	担当教員	外部講師 梶田 徳子	単位数	1	時 期	3 年次 4 月～1 2 月
時間数					3 0		
目的と目標	身近な競技を通しスポーツを楽しみ、心身のリフレッシュ、健康の保持増進を図る。 1 正しいルールのもとで、楽しく身体を動かすことができる。 2 健康の維持増進ができる。 3 集団での協調性を身につけることができる。						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1	オリエンテーション	(1) 体育の目的、準備運動の計画			講義	外部講師 (梶田徳子)	
2	集団レクリエーション	(1) 集団レクリエーションの企画立案、実施			講義と 実技		
3							
4							
5							
6	集団スポーツ (バレーボール)	(1) 基礎技術			実技		
7		(2) ルールの説明、チーム分け					
8		(3) ゲーム (6 人制、9 人制)					
9							
10							
11	集団スポーツ (バドミントン)	(1) 基礎技術			実技		
12		(2) ルールの説明 (ダブルス)					
13		(3) ダブルスゲーム					
14		(4) 順位戦					
15							
評価方法	100 点 出席状況、授業態度により評価する。						
教科書 参考文献							
事前準備や 受講要件等							

授業科目	看護倫理	担当教員	外部講師☆ ①岩井 謙太郎 ②小野 悟	単位数	1	時 期	3年次 9月～12月
目的と目標	現代社会の諸問題を倫理的な観点から考察し、生命の尊さ、人間尊重の態度、人権擁護について理解を深め、医療従事者としての態度を養う。 1 倫理的判断の基礎を理解する。 2 現代社会における倫理学の課題について考究する。 3 看護実践における倫理的問題に対し、倫理的視点で分析し、解決方法やアプローチ方法について考えることができる。 4 専門職業人としての倫理観を培う。						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1	倫理学の基本的な考え方	(1) 倫理学とはなにか (2) 倫理と道徳について (3) 人間の持つ二面性 (4) 人間観の歴史と基本的人権			講義	外部講師 (岩井謙太郎)	
2	生命倫理	(1) 生命の尊厳と人権問題 (2) 臓器移植・脳死からの課題 (3) 安楽死・尊厳死からの課題 (4) 患者の権利と自律、インフォームド・コンセント			講義		
3							
4	性と生殖の倫理	(1) 性の生命倫理 (2) 生殖の生命倫理 (3) クローン問題 (4) 不妊治療の課題			講義		
5	職業倫理	(1) 人権擁護 (2) マスコミと倫理 (3) 企業と倫理 (4) 看護倫理			講義 演習		
6							
7	専門職の倫理	(1) 専門職の倫理綱領			講義 演習	外部講師 (小野悟)	
8	倫理的問題へのアプローチ	(1) 看護実践における倫理的問題の特徴 (2) 倫理的問題へのアプローチ法 (3) 事例分析					
9							
10							
11							
12	自分の行った看護に対して倫理的に考える	(1) 事例についての看護を倫理的視点で振り返る			講義		
13							
14							
15	試験（1時間） まとめ（1時間）	(1) 試験 (2) まとめ			試験 講義		
評価方法	筆記試験 100点（1～6回：50点、7～15回：50点）						
教科書 参考文献	系看 別巻 看護倫理（医学書院） 講義資料を配付						
事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと						
☆担当教員の 実務経験	②専門看護師として勤務した経験を活かした授業展開をする。						